



## 書評

# この地獄を生きるのだ

小林エリコ著

「生活保護」と対峙する小林氏の真摯な姿勢はこの本の全編を静かに、途切れることなく流れている。生活保護という制度、生活保護を受けるということ。そして生活保護を受けざるを得ない自分の生き方。その目線は冷徹なほどに己にきびしい。

「生活保護世帯の自殺率は日本全体での自殺率の2倍以上高いのだという。これは最低限度の暮らしを送るおかねがあるだけでは、ひとは心安らかに生きられないということを意味している。実際、私も生活保護の受給中に自殺未遂をした。」小林氏の経験が言わしめた実感である。私たちは自殺に走る人の心情や、生活保護を受ける側の心情を知ること、いつ自分がこうした立場に立ってもおかしくはないのだという危機感に似た気づきを得る。

メンタルの病で働くことができない肩身の狭さと苦しみ。あまりの生活の困窮にスーパーで398円のコンソメの支払いをしないでしまったことへの後悔。(数年後、その店舗へ支払いを申し出る) そうした真面目さ故の小林氏の律義さ、正義感がより一層、小林氏自身の首を絞めているように見える。他方、この小林氏の資性こそが現在の回復へつながった最大の要因であったことは明らかであろう。

毎月支給される生活保護費の生活に慣れていくことが恐ろしかったと記す小林氏は最終章で、経済的自立を果たし、ついに生活保護の廃止の手続きをするところまで辿り着く。「地獄といえども休息はある。ゆっくり休んで地獄から抜け出せばいいんだ。」ストイックなほどに生活保護に罪業のようなものを感じていた小林氏が生活保護を「休息」だと表現した。その言葉に私たちも一緒に一息つく。小林氏の確実な歩み、苦しみの成果を見た気がした。

尚、小林氏は来年1月26日(土)に開催されるSottoのシンポジウムにおいて、パネリストとして登壇される。小林氏の生の発言を聞くことのできる貴重な機会である。



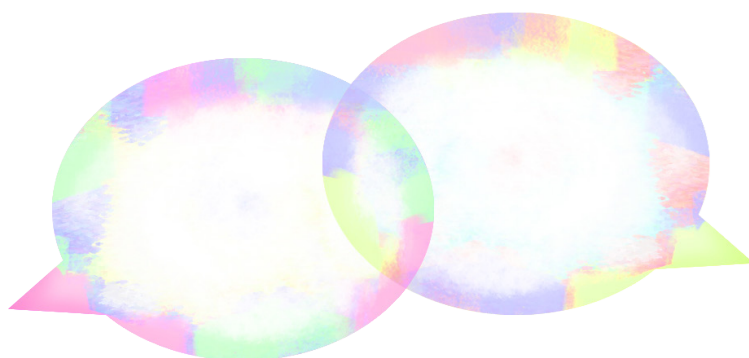
# 広島被災地での 「おしゃべりコーナー」

平成 30 年 7 月豪雨から二か月が過ぎました。ひろしま Sotto の活動拠点である広島県内では 100 人以上の方が亡くなり、各地で甚大な被害が出ています。広島では四年前にも豪雨による土砂災害がありましたが、今回は各地で被害が出ていますので、どこも「ボランティアが足りない」という声を聞きます。ひろしま Sotto のメンバーはそれぞれ縁のある場所でボランティアをしています。

そんな中、呉市安浦町に在住しているひろしま Sotto のメンバーが、ほぼ毎日ボランティアセンターに出向き、支援物資の仕分けや罹災証明書の手続きのお手伝いなどをしていました。呉市は「くれ災害ボランティアセンター」を立ち上げ、安浦町では「安浦まちづくりセンター」に安浦サテライトが置かれ、この建物の 2 階から 4 階は被災者の避難場所となっています。当初は 50 人ほどの避難者がいましたが、最近は仮設住宅への引っ越しなどがはじまっています。私もここを拠点に被災住宅の泥出しなどの作業をしつつ、職員の方と相談して、1 階ロビーの片隅に「おしゃべりコーナー」を設置していただきました。「心のケア相談窓口」といった名前だと構えてしまうでしょうから、気軽に立ち寄れる雰囲気にしたかったのです。それでも被災者の方はたいてい被害の状況からお話をはじめられます。九死に一生を得たという方もおられました。被害状況などは、お互いに比較してしまったりして、被災者同士では話しにくいようです。また避難所生活での愚痴なども話せないようで、そんな話も聞かせていただきました。第三者だから話せるということもあるようです。

「同世代の話し相手がいなかったから話せてよかった」と笑顔になった人がいたり、険しかった表情がやわらいたり、最初は笑顔だったのに話していく中で涙を流されたり、ただずっと淡々と話されたり、まさに十人十色で、ただそれを聞くだけです。微力ながらも、これからも長期的な支援を続けていきたいと思っています。

ひろしま Sotto 代表 武田慶之



# 一緒に育てていききたいと 思ってもらえる団体になるために

昨年度の活動をまとめた事業報告書作成の最終作業の真っ只中です。

事業報告は、信用に足る団体だと会員・寄付者の皆さまに判断してもらうために重要な資料です。NPO 法人において事業報告書は、団体に関する情報をできるだけ公開することによって、会員・寄付者の皆さまの信頼を得て、皆さまと一緒に団体を育てていくためにも、活動を公開することの重要性は言うまでもありません。信頼を得て、応援・支援して下さる方を増やすためにも、正確でわかりやすい書類づくりを心がけています。

また団体内部にとっても、改めて活動を振りかえるとともに、今後の展開を熟考する重要な機会です。

今回は少しでも多くの人に手にとってもらえるよう、雑誌のようなデザインを考えています。来月の会報に同封することを予定していますので、いましばらく楽しみにお待ちください。

このたびは、事業報告書に掲載予定である、活動に携わっているボランティアの方の声を紹介させていただきます。メンバーがどのような想いを持って活動しているのかを知ってもらう機会になれば幸いです。

(ファンドレイジング委員長 霍野廣由)

## ボランティアの方の声

私が相談センターでボランティアとして活動し始めてから二年がたとうとしています。参加を決めた理由は、電話を挟んで向かい合った相手の気持ちにそっと寄り添う、ということをごまでも徹底する相談センターの方針に感銘を受けたからでした。

世間では、支援団体が活動をすることで、どのような変化をもたらすことができたのか、成果はどれくらいあったのかといった、数字や量が注目されます。もちろん結果も重要ですが、対人支援において、一人一人が抱えている自分だけの苦悩に丁寧に寄り添っていくことが大事なのは、どこまでも変わらないと思います。言うまでもない当然のことかもしれませんが。

しかし一方で、その姿勢というのは（私自身も活動を通して感じるのですが、）気づかないうちにぶれやすいものではないかと思えます。どうしても数字や結果など分かりやすいものに傾いてしまいがちだからです。だからこそ、その基本を徹底するという方針を皆で共有することはとても大事なことだと、二年目に入った今、改めて痛感しています。

(8期生)

## 今月のことば

そう、俺には傷つかないもの、埋葬されないものがある。

岩をも砕くものがある。それは、俺の意志だ。

(ニーチェ『ツァラトゥストラ(上)』)

## 活動報告

- 8月期電話相談件数…60件(無言10件)
- 電話相談委員会…グループ研修 8/30 参加5名
- 8月期メール相談件数…受信130件、送信106件
- メール相談委員会…委員会会議 8/29 参加6名
  
- 居場所づくり委員会…委員会会議 8/22 参加6名  
おでんの会 “研究の場” 8/1 申込13名(参加12名)
- グリーフサポート委員会…委員会会議 8/9 参加3名
- 研修委員会…委員会会議 8/2 参加8名
- 広報発信委員会…委員会会議 9/5 参加8名
- 映画委員会…委員会会議 8/22 参加5名  
ごろごろシネマ 8/4 申込10名(参加4名) 8/24 申込10名(参加5名)



## 寄付で協力一覧(敬称略・順不同) 2018年8月1日～31日 受付分

### ご協力にこころより感謝いたします

浄土真宗本願寺派  
株式会社エクザム  
葛野洋明

京都市・一念寺  
荻野昭裕

加藤大  
長嶋蓮慧  
永江武雄  
堺市・圓光寺



#### Sotto コメント

今月はPCモニター(3万)とキーボード(1万)とスマートウォッチ(3万)を買いました。家計は火の車です。

(M.N)

発行 2018年9月

特定非営利活動法人 京都自死・自殺相談センター事務局

〒600-8349 京都市下京区西中筋通花屋町下ル堺町92

T E L 075-365-1600

U R L <http://www.kyoto-jsc.jp>

E-mail [so-dan@kyoto-jsc.jp](mailto:so-dan@kyoto-jsc.jp)